

クリティカル・シンカーを育てたい
—ディベートで考える「動物の権利」—

佐古 孝義

Tips on How to Develop Critical Thinking Skills through Collaborative Learning

Takayoshi SAKO

教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要

第2号 (2020年3月)

Journal of Educational Research
Center for Educational Career Enhancement

No.2 (March 2020)

クリティカル・シンカーを育てたい

—ディベートで考える「動物の権利」—

佐古孝義

(京都教育大附属高等学校)

Tips on How to Develop Critical Thinking Skills through Collaborative Learning

Takayoshi SAKO

Senior High School Attached to Kyoto University of Education

2019年11月29日受理

抄録：動物実験の是非について、クリティカル・シンキングに基づいた「パーラメンタリー（即興型）ディベートを取り入れた討論型授業を通して、その恩恵を医療や美容、食など様々に受ける「消費者」として、改めて正面から考えてみることで、グローバル時代を生きる「エシカルでクリティカルな賢い消費者」となるために必要なことは何かを提示する。これは改訂学習指導要領が求める「現代的な諸課題に対応して求められる問題発見・解決能力等の資質・能力の育成のための教科等横断的な学習」の一例となることを企図したものである。

キーワード：クリティカル・シンキング，パーラメンタリー（即興型）ディベート，主体的・対話的で深い学び，動物倫理，消費者教育

I. はじめに

「ロジカル・シンキング（論理的思考）」や「クリティカル・シンキング（以下、CTと略記する）」「批判的思考」などという言葉が教育現場を賑わせているようになって久しい。私は、菊地建至（2015）に倣って英語教育の中で目指すべきCTを「早まることなく、細部にも関わって、複数の視点で、吟味し、問い、よく考える」知的な営みを指すものと（暫定的に）定義している。ではこのCTは、次期学習指導要領が目指す方向性と果たしてどのような関わりを持つだろうか？

平成30年告示の「高等学校学習指導要領 解説」の総則には、改訂の基本方針として「各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。以下同じ。）、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために教科等横断的な学習を充実することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。」（文部科学省（2018: 4））とある。

では、ここにある「現代的な諸課題」とは何か？それに対応して求められる「資質・能力」とは具体的にどういう能力なのか？こうした問いに対する答えになることを企図して、本稿では、CTを生徒が実際に駆使しながら協働学習を進めてゆくことを意図した実践を、「主体的・対話的で深い学び」の一つの例として紹介したいと思う。

以下に示す授業は「パーラメンタリー（即興型）ディベートを取り入れた討論型授業で、動物の権利について考える」ことをテーマとしたものであり、京都教育大学と附属高等学校が共同して研究開発を行っているグローバル・スタディーズの実践例の一つである。また、本授業は、京都府府民生活部消費生活安全センターが行う「消費者教育推進校事業」での実践を兼ねている。

Ⅱ. 課題設定の意図

私は、「現代的な諸課題」のひとつとして「動物倫理(Animal Ethics)」を取り上げることにした。動物倫理とは、人と動物との関係が本来どのようにあるべきか、また動物とは本来いかなる存在であるかといった問いについて、哲学的・倫理的に考究するものであるとされる。欧米ではすでに、動物に対する扱いについて、Animal Welfare や Animal Rights といった立場を巡って議論が蓄積されてきた。一方、現代の日本においても、野生動物による農業被害の問題、ペットの殺処分、災害時における動物の扱い、捕鯨問題など日本社会に生きる我々の動物に対するあり方が、グローバルな場面でも問われることが増えてきており、日本の将来にも関わる重要な課題となっている。今回は、動物実験の是非について（もちろん高校生（及び教員も）直接の当事者ではないが）その恩恵を医療や美容、食など様々に受ける「消費者」として、改めて正面から考えてみることで、グローバル時代を生きる「エシカルでクリティカルな賢い消費者」となるために必要なことは何かを問うことにした。

Ⅲ. 授業実践

1. 使用教材

MAINSTREAM English Communication II Second Edition (検定教科書) 増進堂 (2018)

— Chapter 7 Animal Intelligence

教科書では①「ヒトとサルはどちらがより賢いか」という問い、②アリストテレスの「自然の階段」という考えと、ルネ・デカルトやB・F・スキナーの動物に対する考えについて、③ゾウに関する従来の実験の問題点と現在の実験の方法について、④現在の科学者がヒトと動物を区別する壁を崩しつつあることについて、の4点を取り扱われている。教科書の読解・聴解を通じて、まずこうした論点に対して基本的な知識を得た上で、とくに③④の論点を発展させ、文献などでさらに知識を整理・拡充した（文献のリストは最終ページに掲げる）。これらの文献では、さまざまな立場から「動物の権利」についての賛否両論の議論がされている。こうした問題について、CTの手法を用いて原理的に批判的に考えることは、「エシカルでクリティカルな賢い消費者」となるうえで非常に有益である。また、追加の参考資料も生徒に読ませて、理解を深めることにした。

2. 指導計画（全7時間）

1～4時間目までで教科書の読解を終え、ディベート活動を実施した。

時	学習活動	評価基準（評価の観点）
5 6	・文献を通じた発展的な理解 ・賛成・反対の議論を組み立てる ・チームわけとジャッジの決定	●知識・理解 動物実験の是非に関して、「動物の権利」を擁護する観点と「動物福祉」を掲げる観点の双方の論点を整理する。〈資料①〉 ●関心・意欲・態度 倫理的な論点について、可能な限り先入見を捨てて公平な視点でものを見ることができる

7 (本時)	・英語によるディベートを実施する	●コミュニケーションへの関心・意欲・態度 積極的にディベートに参加している。 チームの中で自分の役割を理解し、説得力のある議論を展開するためにチームに貢献している。 ●外国語理解の能力 発言者の発言内容を正確に理解できる。 自分の理解度を即座に判断し、理解の不十分な内容には質問ができる。 ●外国語表現の能力 自らの意見を分かりやすい英語で論理的に表現し、ジャッジを説得することができる。 相手の意見と自分の意見を即座に比較・分析し、論理的に反駁ができる。 相手の質問内容に沿った回答ができる。 ●言語・文化についての知識・理解 動物実験の是非に関して、「動物の権利」を擁護する観点と「動物福祉」を掲げる観点の双方の論点を社会的・科学的な視点をもって理解し、客観的に分析することができる。
-------------------	-------------------------	---

〈資料①〉賛成・反対ごとに各グループで英文資料をまとめて提出させた。ジャッジの生徒は、論題の解説を担当。成果はクラス全員に印刷配布した。

Motion: Animal testing [experimentation] should be banned.

論題 Motion について英文でまとめた生徒

もうた

When it comes to the controversy on animal experimentation and medical testing would be the two main points in dispute experimentation is more or less necessary to ensure the safe development of new and vital treatments that were used numerous people worldwide. Currently, not all animal research or testing may replaced by non-animal methods. However, would that really be the reason exploiting millions of animal life? Deliberately infecting innocent creatures with horrifying, painful diseases and torturing them often makes us feel a twinge of conscience. It is cruel method, and moreover, animals and human beings are so different that research on animals often produces irrelevant results. As "medical testing" is the core part of this debate, it is required that we debate this argumentative topic rigorously.

That cannot be applied to human cases.

人間は動物とは異なる。動物に感染させることは人間の健康や安全を脅かす可能性がある。また、動物の苦痛は人間の倫理観と相容れない。したがって、動物実験の結果をそのまま人間に適用することはできない。

動物は権利がある。人間と同じく動物も生命体として尊重されるべきである。動物を無差別に殺害したり、苦しめたりすることは道徳的に許されない。動物の権利を守ることは、我々の社会の文明性を示す重要な指標である。

動物は知能があり、感情を持つ。多くの動物は人間と同様に学習能力を持ち、痛みを感じる。彼らを単なる実験材料として扱うのは、彼らの尊厳を踏みにじる行為である。動物の福祉を考慮せずに進める研究は、科学的にも倫理的にも正当化できない。

動物実験は必要不可欠な手段であり、多くの医療的進歩をもたらしている。しかし、その必要性と動物の犠牲とのバランスをどう取るかが課題である。代替方法の開発を促進し、動物の使用数を最小限に抑えることが求められる。

動物実験は生体実験。人間の動物に対する扱いがポイント。Peter Singer は動物も意識をもった生物であると主張し、人間と同等の権利を認めている。彼は「種別主義」を批判し、すべての生物が平等に扱われるべきだと訴えている。

Section A の「動物の権利」についての議論が検討されている。
 - 動物は権利を持っており、それによって...
 - もし、動物が権利を持っていれば...
 - 数人は動物の権利を認め、尊重することを主張している。

今回の「動物実験と生体実験」についての議論
Pros ... 人間の命を達成する手段として動物を利用することは間違っていない。
Cons ... 我々人間自身も利益のために成功が他種(動物)を度うことはよくない、当然だ。
 動物を利用して得られた成果は、逆に我々の身体に悪影響を与える。

この討論で医学薬品試験に焦点を当てて。

explantation

of Animal Experimentation Pros

実験は動物なしでは不可能。拷問を伴い時、
torturing
 例) 化学物質による皮膚炎の発生させたり
 遠位手術、
 遺伝子の改変ウイルスなど
 感染、

経済的・医者の利益をいふ。動物の死後の臓器の利用も正当化できる。一部の動物は高度な知能を持ち、人と同じ様に感情豊か。虐待、影響を受けることになる。
非効率 inefficient

2. 動物研究が成功、必要経費、効率が低い。誇張されたい。実際には生体解剖の実験は無駄。結果が良ければいい。失敗したらダメ。毎年5千〜6千万の動物が使われている。信頼性の低い結果を得ることが多い。これは、生体解剖の実験は科学の方法として欠陥があるから。(→ 種類別の種類の動物の実験でそれぞれに特長がある)

3. 動物の権利問題。動物は生命体。人間と同じように感じる。ありえず、
emotive
 エモーショナル
 感情的
 主観的な

ディベートで使える語彙集を添付するようにさせた

死刑執行 研究者一家は早く攻撃された。民間人の生命を危険にさらす。自衛手段の不足により被害者が増える。

vivisection: 生体解剖の実験 **susceptible**: 感心、受ける
exaggerate: 誇張 **inefficient**: 効果のない、効率が悪い
The Animal Liberation Front: 動物解放戦線
claim responsibility for: 犯行声明を出す

過激派組織
 動物解放戦線の活動に関するもの

〈特記〉今回行ったディベートの形式に関して

本来のパーラメンタリー（即興型）ディベートは、ポリシー／アカデミックディベートとは異なり、特段の事前準備を必要としないものとされている。授業の冒頭に論題が与えられ、15 分の準備時間を経てディベートを行う。ただし、今回は教科書で学習した内容を発展させた **Post-reading** の活動であり、また論題が非常に倫理的で難度の高いものである点から、日本語／英語での参考文献での参考資料の読解と論点整理の時間を設けた。

ディベーターの人数構成についても、本来であれば肯定側・否定側ともに3人ずつの6人、各グループには一

一般聴衆であるジャッジが1人ないし2人加わる形式が一般的であるが、授業実施クラスの人数が37名であるため、以下の通り肯定側・否定側ともに4人ずつの8人+ジャッジが1人または2人とし、計4グループ（8チーム）で実施した。グループ分けは、英語力に極端な差が出ないように、成員の考查成績の合計がほぼ同じになるように設定し、上位5人（中には帰国子女が含まれる）をジャッジに任命した。スピーチの順番は下表の①～⑧の通りで行った。

《資料②》ディベートのルールとスピーチのフォーマットについて

Debate Worksheet

ディベートの基本ルール

(1) 概要
ディベートとは、ある論題が与えられ、肯定側(Affirmative)と否定側(Negative)に分かれ、一般聴衆であるジャッジを獲得する。ディベーター自身は自分が肯定側か否定側かを自由に選ぶことはない。

(2) 準備 Preparation Time
15分。その間に論題を理解し、アイデアをBrainstormingして、最も説得力のある論点を2つ抽出し、議論を組み立てる。

(3) ディベートの構成

肯定側(Affirmative)	否定側(Negative)
①肯定側立論 (1) Constructive Speech(1) : 定義を行い、〈肯定する理由①〉を述べる	●否定側立論 (1) Constructive Speech(1) : 〈肯定する理由①〉へ反論し、〈否定する理由①〉を述べる
②肯定側反駁 Attack Speech : 〈否定する理由①〉への反論	●肯定側反駁 Attack Speech : 〈肯定する理由①〉への反論
③肯定側立論 (2) : 〈肯定する理由②〉を述べる	
④肯定側反駁 : 〈肯定する理由②〉への反論	
⑤肯定側結語 Defend : 〈肯定する理由②〉への反論	

それぞれのスピーチについて、詳細な注をつけたフォーマットを事前に配り、これに書き込みながらディベート行うように指示した

ジャッジ

- ・PQで積極的に関与しているか?
- ・論点を
- ・はつきりわかりやすい言葉で話しているか?
- ・構成はわかりやすいか?

Debate Worksheet

②否定側立論 (1) Constructive Speech of the Negative Side (1)

●挨拶
Hello, everyone. I am _____

●否定側の基本方針
We believe that _____

●肯定側ポイント (1) への反論
Let me rebut what the team ____ said.
They said / talked about _____

However, _____

Therefore, _____

●否定側ポイント数の確認
Let me explain our points. We have two points.
Our first point is _____

Our second point is _____

●否定側ポイント (1) の説明
I will explain the first point _____

We believe _____

Therefore, _____

●終わりの挨拶
Thank you.
Speech Sheet

←名前

議題の否定を述べ

①のスピーチで述べた根拠(オピニオン)を記憶

反論を書く

①の肯定側ポイントに反論を述べる

否定側ポイントの2つをサマズキを書く

1つ目の否定側ポイントのサマズキ

具体例(7-9)や自分のセオリーをsupportのベースに議論を組み立てる

(※プランを明確に書く)

結論は論議の否定

肯定側(Affirmative)	否定側(Negative)
①肯定側立論 (1) ConstruCtive Speech(1) : 定義を行い, 〈肯定する理由(1)〉を述べる	②否定側立論 (1) ConstruCtive Speech(1) : 〈肯定する理由(1)〉へ反論し, 〈否定する理由(1)〉を述べる
③肯定側反駁 Attack Speech : 〈否定する理由(1)〉への反論+ 〈肯定する理由(1)〉再構築	⑤否定側反駁 Attack Speech : 〈肯定する理由(1)(2)〉への反論+ 〈否定する理由(1)〉再構築
④肯定側立論 (2) ConstruCtive Speech(2) : 〈肯定する理由(2)〉を述べる	⑥否定側立論 (2) ConstruCtive Speech(2) : 〈否定する理由(2)〉を述べる
⑧肯定側結論 Defense Speech : 〈否定する理由(2)〉への反論+肯定側が優っている理由をまとめる	⑦否定側結論 Defense Speech : 否定側が優っている理由をまとめる

※相手チームのスピーチ中に、質問やコメントを 15 秒以内で発言することができる。これを POI (Point of Information)と呼ぶ。生徒には積極的に POI をするように促した。

〈資料③〉

生徒の様子。授業は図書室（授業研究室）で行った。生徒は資料を調べたりしながら作戦会議をし、ジャッジの司会のもとで試合をした。ジャッジが勝敗と Best Debater を決め、講評までを行った。



ディベート後はまとめとしてライティング活動に進んだ。グループの立場とは関係なく、自分で賛成／反対の立場を選び、**Essay Writing**を行う。(資料はグループで共有する。書ききれなかった生徒は家で完成させるよう指示した。その際に、当初の自分の意見が、ディベート活動を経て変わった場合、何がその決め手になったのかを考えさせるように注意した。

〈資料④〉

20180112 グローバル・スタディーズ (英語リスニング) 群馬県高等学校 英語科 吉田 孝樹

題	番 氏名
---	------

For Further Study

The motion before us today is that animal experimentation should be banned.

I believe that _____

animal experimentation should go on not be prohibited.

I will give you ^{two} arguments. that should not in the same way as humans.

One is human can treat animals laboratory animals.

The other is there is no (alternative test)

I will explain to you that _____

First, I think humans don't treat animals equal to us as their parents. for example, in the zoo, animals are put in a cage, are exhibited. However, humans never experience such things, so it is wrong for some people to use this sentence "Humans and animals are treated equally," so animal experimentation is wrong on principle when they prove animals' experimentation should be banned second, there is no substitute laboratory animals. There is a common on an understanding about AIDS, cancer, and so on. If humans use mouse experiment either on animals or on humans. Probably affirmative people say that we can and should use computer simulations, but they are only applicable to simple criteria. of what we have full understanding. Moreover, people cannot be expected to volunteer as guinea pigs.

few of us understand about ~ those who stand against ~ that animal testing banned

For this reason, I would like to argue that _____

animal experimentation should not be banned

思考のヒント

動物実験に対する当初の自分の意見が、ディベート活動を経て変わったとすれば、何かが決め手になったのか。また変わらなかった場合は、どういう点で自分の意見をより強かなものと感じるようになったかを意識してみよう。

The motion before us today is that school libraries should have more comic books.

I strongly support this motion. ← 反対の場合は oppose this motion
It will give you one argument.
It is the academic usefulness of reading comic books. * 自分の Argument を読者の立場から説明する

I will explain to you that reading comic books can and does help students with their studies.

My reasoning is as follows. ————
There is a wide variety of comic books in Japan, including the ones dealing with history or science. Surprisingly, you can also find comics whose main theme is on how to prepare for university entrance examinations. With the help of these kinds of comic books, studying has become much easier for students.

There is supporting evidence. ————
Though it may be hard to believe, according to one survey, at one school, the average score of the students who read manga regularly is much higher than those who don't.

This argument is important because a school library must be a place for self-study and self-study must be fun.

For this reason, I would like to argue that school libraries should have more comic books.

結論は optional
補足し
(or 決定)

Essay Writing では、ディベートで使ったスピーチのフォーマットを援用して書くことを指示した。これまで学習してきたパラグラフ・ライティングの基本の復習となった。とくに

- 1) 主題文・指示文・結論文からなるパラグラフ構成を理解して書くこと
- 2) 列挙・順序・対比・例示・追加・原因・理由・結果などを表すさまざまな Discourse Marker を使って書くこと

の2点に注意するように指導した。

3. 評価に関する留意点

(1) ディベートの評価

上掲のディベート進行表にある通り、すべての生徒に何らかの役割が与えられ、役割別にワークシートが配布される。そのワークシートの記入度合いによって、ディベートへの参加姿勢を評価することができた。また、ディベート中の発話に関しては、英語でのコミュニケーション活動、特に自分の考えを伝えることを重視するので、内容面を重視し、軽微な文法的誤りに対してはマイナス評価をしない。

(2) ライティング課題

作文について、英語としての表現面に関しては、ディベート中の発話よりも文法的・語法的な誤りを厳しめにチェックし、訂正して返却した。特に興味深い意見についてはクラスで共有した。専門的な語彙はすでに教科書以外の文献読解で学習されているため、それを正しく作文中で用いることができるかも評価対象とした。内容面の評価は(3)に譲る。

(3) 内容に関する評価

動物実験に対する当初の自分の意見が、ディベート活動を経て変わったとすれば、何がその決め手になったのか。また変わらなかった場合は、どういう点で自分の意見をより確かなものと感じるようになったか、ディベート前後の対比を意識して書かせた。当然だが、賛否そのものを評価するのではなく、賛否双方の意見対立に関して、どこまでCTの手法を用いて原理的に批判的に考えることができたか、ということの評価の対象とした。

IV. 結果

動物実験の是非についてディベートを行ってみて、生徒が問題にした主な争点は、「動物実験の実施によって人間が受ける恩恵」と「動物を搾取したり痛みを与えたりする残酷さ」とのバランスをどう考えるか、だった。「利益か倫理か」という二項対立と単純化してはいけないのかもしれないが、容易に結論が出せる問題でもないし、綺麗事だけですむ問題でもないということを生徒は再認識したのではないか。実際、ある生徒は「動物実験を全否定する論理を組み立てることは現状を考えると非常に難しい」と作戦会議中にこぼしていた。「科学(医学)の進歩」という美名の下で、動物の犠牲によって得られる恩恵を医療や美容、食など様々な面で受ける「消費者」であるわれわれが、改めて正面からこの問題を考えてみることは、「エシカルでクリティカルな賢い消費者」となるために正に必要なことではないかと実感した。

普段、英語の授業でたとえばこうした「消費者教育」の視点を意識することは少ないかもしれない。教科書の進度を意識し、教えなければいけない基本的な語彙や文法語法的知識の多さを考えると、毎時間立ち止まってゆっくりとCTする時間は確保できないだろう。しかし、一方で学習指導要領の改訂には、次のような記載がある。

「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」とは、多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念(知識)を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすることであり、「外国語で表現し伝え合う」ためには、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成し、再構築することが重要である(下線は引用者)(文部科学省(2018: 12))

このような「内容面の充実」の要請に応えるためにも、英語の授業の中に、現代社会の諸課題を多角的・複眼的に捉える視点を導入する必要性は今後一層増してくるのではないだろうか。

以下は、事後の生徒アンケート結果をまとめたものである。

〈資料⑤〉 アンケート結果

●事前準備について

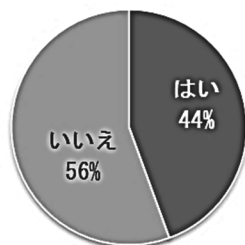
回答生徒：2年生36名

	とても難しい	やや難しい	どちらともいえない	やや簡単	とても簡単
「動物実験の是非」という題材そのものの難易度はどうでしたか？	5	25	6	0	0
2回の英文課題について難易度はどうでしたか？	4	20	12	0	0
	とても役立った	まずまず役立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	全く役立たなかった
2回の英文課題は、本番のディベートに役に立ちましたか？	18	7	9	1	1

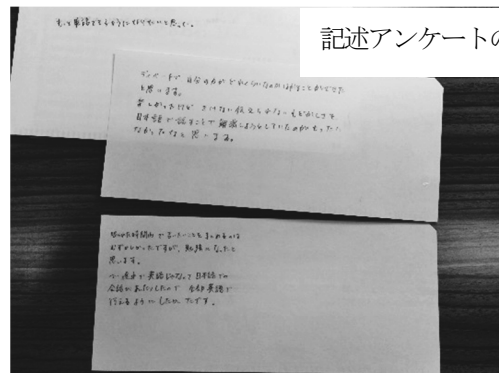
●本番のディベートについて

	大変よく出来た	よく出来た	どちらともいえない	あまり出来なかった	全く出来なかった
動物実験の是非について多角的な理解を深めることができましたか？	10	18	7	1	0
論拠を示して論理的に意見を述べることができましたか？	1	14	14	6	1
相手の話をよく聞き、論理的・批判的（critically）に考えて意見を述べることができましたか？	1	8	17	8	2
決められた時間の中で自分の言いたいことを明確に述べることができましたか？	0	10	16	9	1
グループの人と協力して準備を進めることができましたか？	12	14	7	3	0
	大変深まった	まずまず深まった	どちらともいえない	あまり深まらなかった	全く深まらなかった
「動物実験の是非」という論題についての理解は深まりましたか？	13	18	4	1	0
	とても役立った	まずまず役立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	全く役立たなかった
あなたの英語学習にディベートは役立ちましたか？	12	15	8	1	0

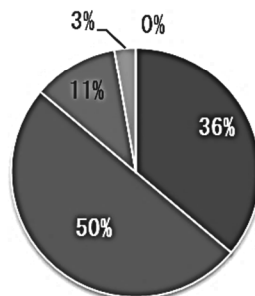
これまでに英語ディベートを行ったことはありましたか？



記述アンケートの様子

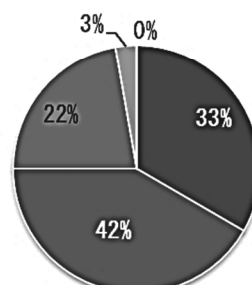


「動物実験の是非」という論題についての理解は深まりましたか？



- 大変深まった
- まずまず深まった
- どちらともいえない
- あまり深まらなかった
- 全く深まらなかった

あなたの英語学習にディベートは役立ちましたか？



- とても役立った
- まずまず役立った
- どちらともいえない
- あまり役立たなかった
- 全く役立たなかった

補足：記述アンケートの内容（上掲の写真）

- ・もっと英語ができるようになりたい。
- ・ディベートで自分の力がどれくらいなのかはかることが出来たと思います。楽しかったけど、きけない、伝えられないもどかしさを、日本語で話すことで解消しようとしていたのがもったいなかったなと思います。
- ・限られた時間内で言いたいことをまとめるのはむずかしかったのですが、勉強になったと思います。つい途中で英語じゃなくて日本語での会話があったりしたので、全部英語で行なえるようにしたいです。

このアンケートで注目すべきは、非常に高度で倫理的な論題に関して、「大変理解が深まった」「理解が深まった」と回答している生徒が合わせて9割近くにのぼっているということである。事前課題として配布した英文資料（上掲）も非常に役に立ったようだが、これもディベートで使うという目的意識があったからこそであり、リーディングの技能についても一定の効果を果たしたと見ることができる。一方で、ディベート本番では、「即興性」という点においてまだまだ課題があることが改めて浮き彫りになった。「限られた時間内で自分の言いたいことを明確に述べるのができたか」を問うた項目では、30%以下の生徒しか「出来た」と実感していないことが判明した。論理的に相手を説得する発言を「即興で」行うことは、生徒たちにとって極めて難易度の高い活動であるが、授業者による観察では、チーム内で助け合おうと協働する場面が多くみられたことは収穫であった。

また自由記述では、従来の（いわゆる文法・読解中心の）授業との違いを新鮮にとらえる回答が複数寄せられた（回答数 11）。「限られた時間内で言いたいことをまとめるのはむずかしかった」「自分の思っていることを伝えるのは難（ママ）」といった難しさについて言及しているものがある一方で、「ディベートで自分の力がどれくらいなのかはかることが出来たと思います。楽しかったけど、きけない、伝えられないもどかしさを、日本語で話すことで解消しようとしていたのがもったいなかったなと思います」「コミュニケーション力が向上したり、そつきょうで返す訓練ができる（ママ）」「英語を話す機会が少ないので、こういうものがあると良かったです」といった意見も見られた。これらは、まさに授業者が狙いとしていた「聞き手を意識するやり取り」の実践の意義が伝わった証左であると考えられる。伝えたい思いや考えに対して、適切な言語形式を与える力を生徒につけさせるために、表現・文法系の授業の中で我々が考えるべきことは何か、を改めて考える契機になった。

V. 考察

こうしたディベートを取り入れた討論型授業を英語で行う効果は何かを考えてみると、次の点を挙げることができるだろう。

- 1) 自分の意見とは独立して客観的な事実を捉えることができるようになる（fact/opinion の区別がつけられるようになる）。
- 2) 相手のスピーチを傾聴することが何よりもディベートでは大切になるため、必然的に話す方も聞き手を意識し、聞き手も熱心に耳を傾けるようになる。
- 3) ディベートにおけるスピーチの「型」は、そのまま英文でのエッセイの書き方の基本的なフォーマットになっている。ディベートの練習をつむことで、ライティングの基礎的な技能を実践的に習得することが出来る。

改訂学習指導要領は、「話すこと [やり取り]」に関して、「社会的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動」（文部科学省（2018: 69））と示している。今回のディベート授業は、こうした次代の英語教育の要請への一つの実践となることを企図したものである。そして、この授業の根底に据えるべきなのが CT という思考の運動である、と私は考えている。

CT とは一つの論件を巡って考える限り様々な側面からよく吟味する複層的な協働作業である。ここで強調しておきたいのは、CT とは、論理的な探求や推論に関する〈知識〉とその運用の〈技術〉であると同時に、真理と問題解決を追求する「知的誠実さ」と、思考の柔軟性と他者の意見を尊重する「開かれた心」を持った〈態度〉を意味する、ということである（ゼックミスタ・ジョンソン（1996））。CT において我々授業者が特に留意すべきことは、個々の能力よりはむしろ、主体的・対話的な学びを共有する場（環境）の整備である。

CT では、リーディングのテキストの平面的な理解から一歩進めて、他教科の学習内容を援用したり、自分でリサーチさせたり、その他の読解素材に当たらせたり、自分で実際に試してみたり、そして何より自分が感じたことや考えたことを仲間と共有させる、という立体的な学習を試みるのが大切だと考えている。このような授業を通じて、果たして CT の力は身につくのか、そしてそれを授業者はどのような形で評価する（べき）のか。道田（2012）がいみじくも指摘する通り、CT は技能というよりはマインドセットであり、むしろ他者との（そして自分自身との）〈対話〉という絶え間ない運動そのものを指すものではないだろうか。そう考えると、

授業者は、〈対話〉の外から生徒を傍観し、評価する者ではなく、自分自身がその〈対話〉の運動に絶えず関わってゆく者である（べきだ／はずだ）。この点を考えると、今回の授業を通して、内容面はもとより、授業のあり方に関しても何より授業者である私自身が学ぶことが非常に多い機会となったと考えている。

参考文献

- ・菊地建至（2015）「クリティカルシンキング入門は、何をすることなのか（1）」、金沢医科大学教養論文集 第43号, pp.29-49
- ・ゼックミスタ, E.B.・ジョンソン, J.E.（1996）『クリティカルシンキング《入門編》』（宮元博章ほか訳）北大路書房
- ・道田泰司（2012）『最強のクリティカルシンキング・マップ—あなたに合った考え方を見つけよう』日本経済新聞出版社
- ・文部科学省（2018）高等学校学習指導要領解説 外国語編

以下は生徒に提示したものである。

【動物倫理についての基本文献（ディベートで主に使用したもの）】

- ・伊勢田哲治編(2013)『科学技術をよく考える —クリティカルシンキング練習帳—』名古屋大学出版会
ユニット9「動物実験の是非」 pp.230-241
- ・Newman, D., & Woolgar, B. (2013) *Pros and Cons: A Debaters Handbook*. Routledge.
- Animal Rights pp.13-14
- The banning of animal experimentation and vivisection pp.115-116

【追加の参考文献】

- ・伊勢田哲治, なつたか(2015)『マンガで学ぶ動物倫理』 化学同人
- ・Sharon, M. K., & Thomson, P. (2007) *Philosophy for Teens: Questioning Life's Big Ideas*. Prufrock Press.
- Chapter 10 Do Animals Have Rights? pp.89-98

【その他（教員が参考にしたもの）】

- ・伊勢田哲治（2008）『動物からの倫理学入門』名古屋大学出版会
- ・シンガー, ピーター（2011）『動物の解放 改訂版』人文書院